

真の復興は足元から

読売新聞 特別編集委員 橋本五郎 (昭和40年卒)

同窓会だより90号特集

東日本大震災の復興構想会議の委員になって、初会合から声を大にして言い続けてきたことがあります。一つは、この大震災が私たちに突きつけたものは何なのか、深く考えなければいけないということです。七か月以上経ってもおお四千人近い人の行方がわからないというのはどういうことなのか。海の瓦礫の下かもしれない。遠くアメリカ、カナダまで流されているのかもしれない。それにしても、先進的な文明国にあつて、人の命とは何なのか。人間の尊厳とは何なのか。頭を垂れながら考えざるを得ないので、十メートルの堤防を築いても津波を防げなかった。それでは十五メートルの堤防を築くのか。ある程度努力し、あとは逃げよう、というのが復興構想会議の提言の基本的な考え方です。大自然の脅威にはかわない。「防災」は無理。たかだか「減災」しかできない。謙虚になろうということです。



原発とは、人類が生んだ最先端の技術を駆使してつくりあげた「文明の利器」のはずです。それが今や、巨大なりヴァイアサン（怪獣）のように私たちに対峙し、制御不能にしているのです。福島の人たちを「流浪の民」にしているのです。文明とは何なのかを考えざるを得ません。もう一つ考えるべきは、被災地の復興は日本全体、地方の復興につながるだけではないということ。田舎はどこも大変です。高齢化、過疎化、少子化、あらゆる問題が集約的に現れているところ。東北の被災地はその典型です。そこが襲われたら体の復興のモデルにしなけれ

ばならないのです。そのためには、まずそこに住む人たちの町をどうするかを考えなければいけないのです。

わが母校、山本郡三種町の鯉川小学校は、生徒が十九人しかいなくなり、一昨年統合されました。廃校になった小学校を図書館にしたいと思いましたが、里山に桜の木を植え、ベンチを置いて、お年寄りのための花見の場にしようと思いました。私は本でそんな場をつくりたいと思いました。去年の十月二十九日、町長さんに二万冊の寄贈を申し出ました。翌十一月から大震災の前まで六回にわたって運び、今年の四月二十九日、「橋本五郎文庫」はオープンしました。文庫づくりのため、四十人のボランティアの人たちが手を挙げてくれました。九割が家庭の主婦です。県立図書館まで行って本の分類を勉強し、オープンにこぎつけてくれました。女性がつくるのです。お金がありませんから、手作りなのです。ソファァーは自分たちで持ち寄り、手作りのカバー

が掛けられ、椅子には手作りの座布団が敷いてあります。限りなく温かいのです。教養講座もできました。グラウンドゴルフ大会も始めました。体力教室も軌道に乗っています。今まで家に引っ込んでいたお年寄りが外に出てきたのです。だからといって、経済的な利益を生むわけではありません。でも、みんなが集まって話ができる場ができたのです。五郎文庫の一室で姑たちが嫁の悪口を言い合ってもいいのです。よく聞いてみると自分の嫁の方がよほどましではないのかと思ひ、家に帰って嫁にやさしくなる、ということがあつたつていいと思うのです。大切なことはこの町に生まれ育つてよかつたと思えることです。家庭の主婦たちでつくった図書館に幸あれ、と心から念じています。

秋田高校東京同窓会

会長 **橋本五郎** (昭和40年卒)

幹事長 **鎌田進** (昭和47年卒)

〒106-0032 東京都港区六本木5-16-5
インベリアル六本木1001 鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775 FAX 03-5545-0087
E-mail mail@shuko-ob.net

高井会計事務所

公認会計士 **高井宏司** (昭和40年卒)
税理士

〒010-0951
秋田市山王七丁目6番12号
TEL 018-823-3342

ガス・水道

ISO 9001 認証取得

清三屋施設工業株式会社

代表取締役 **高橋正男** (昭和40年卒)
代表取締役専務 **若狭均** (昭和44年卒)
取締役 **高橋洋平** (平成7年卒)

秋田市新屋天秤野5-18
TEL 018-864-9311

気付いた時が修理とき!

住まいの増改築なら

(株) トータルパー

代表取締役 **高橋基** (昭和40年卒)

秋田市新屋天秤野4-8
TEL 018-863-0438

AFM エフエム秋田

代表取締役社長 **高田二郎** (昭和40年卒)

〒010-0973
秋田市八橋本町3-7-10
TEL 018-824-1155
FAX 018-823-7725